

令和3年度 大阪府立福井高等学校 第3回学校運営協議会

日時：令和4年2月22日 15:00～16:30

場所：本校1階校長室

構成員：

<協議会委員>

勝部 幸	元福井高校校長	
米澤 恵子	元茨木市立福井小学校長	
塩田 寛	福井地区自治振興会	
福田 正幸	茨木福祉健康部 支援員	: 欠席
福山 秀子	本校 PTA 会長	: 欠席
増野 浩典	茨木市立彩都西中学校長（「福井高校を育てる会」会長）	

<事務局>

内田 正俊	校長	
原田 信尚	教頭	
山下 優	事務部長	
太田 真希子	首席	
川上 郁恵	教務部長	: 欠席
中川 誠寛	生徒指導部長	
曾根 康介	進路指導部長	: 欠席
内田 牧	活動支援部長	
野村 達記	地域連携主担	: 欠席

配布資料：

- ・ドリカムの取り組み紹介（冊子）
- ・授業向上プロジェクト（資料1）
- ・多文化共生プロジェクト（資料2）
- ・36期生進路状況（資料3）
- ・生徒指導部「1年間を振り返り成果と課題」（資料4）
- ・活動支援部報告（資料5）
- ・広報活動報告（資料6）
- ・総合学科委員会報告（資料7）
- ・学校教育自己診断表 [生徒・教員・保護者]（資料8・9・10）
- ・総学科アンケート [3年生]（資料11）
- ・令和3年度 学校経営計画（資料12）
- ・入学者選抜概況「令和4年度入試 第3回進路志望調査」（資料13）
- ・令和4年度 学校経営計画（資料14）

内容：

1. 校長挨拶
2. 会長挨拶

3. 事務局より活動報告

- ・ドリカムの取り組み紹介（冊子）

→ドリカムフェスタでは 23 名の 3 年生が発表。前日まで練習している生徒もあり、よいフェスタになった。

- ・授業向上プロジェクト（資料 1）

→今年度は一人一台端末および観点別評価にむけた取り組みを行った。教員の研修への参加率や授業見学実施率もあがっている。一人一台端末の導入にあたっては、スモールステップで取り組みを進め、無理なくできるよう工夫している。結果、学校教育自己診断の結果も改善している。次年度のさらなる活用に向むけ、教科横断型の取り組みやドリカムでの活用などを検討している。

- ・多文化共生プロジェクト（資料 2）

→前回の協議会以降の活動について、高校への出前授業を初めての試みとして行ったほか、WaiWai トークでも審査員特別賞をいただいた。また、日本語能力試験へも取り組んでおり、多数の合格者がでている。

- ・36 期生進路状況（資料 3）

→速報値 175 名に対して 147 名決定。これは昨年度と大差ない数値。就職については介護職の就職希望が増えており、進学については指定校・公募推薦が多い。

- ・生徒指導部「1 年間で振り返り成果と課題」（資料 4）

→以前に比べ、非常に落ちついてきているが、これまでのイメージや目が届かない登下校の様子で、本校の今の良さが伝わっていないと感じる。

- ・活動支援部報告（資料 5）

→「自分を大切に、他者を大切に」をモットーに活動しており、さまざまな生徒が悩みを持っている中、学校教育自己診断の結果にも成果が出ている。ただ、ヤングケアラーや経済面など、学校だけでは対応できない部分もあり、外部との連携を進めている。ゆったりカフェの利用者はのべ 760 名で、1 年生の 72%が 1 度は参加したことがある。フードバンク的な取り組み、勉強会も始めた。コロナ禍ではあるが、行事もなんとか行うことができ、オンラインを併用するなど新たな取り組みも行っている。

- ・広報活動報告（資料 6）

→オープンスクール、学校説明会では昨年度より 50 名ほど多い中学生が来校してくれている。出前授業も昨年度より多く行うことができた。ただ、志願者数が依然として厳しい状況が続いており、来年度にむけてはパンフレットの刷新を行う。

- ・総合学科委員会報告（資料 7）

→主に 39 期生の教育課程の検討を行ったため、上半期の活動となった。結果、6 系列から 5 系列への改編を行い、選択科目を絞るなどの検討を行った。

- ・学校教育自己診断表 [生徒・教員・保護者]（資料 8・9・10）

→全体として肯定率の高い結果になった。コロナ禍や一人一台端末など、教員が試行錯誤した結果が生徒や保護者に伝わっているのならば嬉しい。

・総学科アンケート [3年生] (資料11)

→総合学科5年目で最高値を叩き出した。

・令和3年度 学校経営計画 (資料12)

→学校教育自己診断の結果がこれだけ上がっている中で、ドリカムの肯定率が上がっていないのが気になる。教材が生徒や世の中の状況に合わなくなっている等検証が必要。コロナ禍で地域との連携は難しいが、学校間・施設間であれば一定実施できた。コスモスの地域貢献も成果が出てきており、winwinの関係を築くことができた。

・令和4年度 学校経営計画 (資料14)

→本校がおかれている状況は刻一刻と変化しているため、新たなことを打ち出しても現状にすぐわない。そのため、令和3年度とほぼ同じものになっている。その中で変更した点は、先生方の「やってみたい」をどう引き出すかについて。運営委員の若年化を踏まえ、先生方が何をやってみたいか、少人数の総合学科としてどうやっていくかをテーマとしている。エンパワメントスクール・工科高校・定時制高校(2校)・支援学校・通信制が近隣地域にある中で、福井高校がどのように立ち回っていくかを考えていく。

4. 質疑応答・意見

【経済状況について】

(委員) 経済的な厳しさによる退学者はいたか。

(学校) いない。ただし、進学にかかるお金の厳しさが表面化する件がいくつかあった。

(委員) コロナ禍でアルバイトがなくなり、困っている生徒もいるのでは。

(学校) アルバイトで家庭の援助をしている生徒も存在する。バイトが原因で生活リズムが崩れているのを感じるが、断ち切れないものなので、そのバランスが難しい。

(学校) 事務関係ではお金を徴収する場面で、経済的に厳しい家庭の状況を垣間見ることもある。

(委員) 「人的支援」「予算的支援」を強く望む。現場が気の毒。このままでは生徒のことを考えることができない。

(委員) 「人・もの・金」を府が用意すべき。

【教員の超過勤務について】

(委員) 生徒への支援体制が進んでいることはよくわかったが、先生方の超過勤務が心配。

(学校) 今年度のストレスチェックは113。改善したが、依然として高い数値。

(委員) コロナ禍での消毒や教材の印刷など、近隣の方を部分的に雇える体制はないのか。

(委員) 超過勤務について、調査があると聞いたが、どうか。

(学校) 子育て世代が学校を運営していく中心になっているので、持ち帰り仕事をしている先生方もいるだろうが、それではいけない。以前は教員がたくさんいたので、この仕事さえしていればいいといったスペシャリストでよかったが、今の先生方は一人一仕事では学校が回らない。

(委員) もっとお金をだしてもらえれば解決できることもあるだろう。

【学校教育自己診断・総合学科アンケートについて】

(委員) 先生方への評価があがっているのは本当に嬉しい。

(委員) 「学校に行くのが楽しい」が下がっているのを気にしているようだが、コロナ禍でこの数値なら十分だ。他の項目がこれだけ良くなっているのだから。

【障がいがある生徒の支援について】

(委員) 中学校は支援学級があるが、高校はそうはいかない。人やお金が潤えば、もっとできることがあるのにと感じてしまう。

(委員) 障がいがある生徒とそうではない生徒との交流は意図する、しないに関わらず、いろいろ考えさせることができる。

(学校) 同じ時間に同じ場所で過ごすことが必須。サポートに教員が入りすぎると、生徒同士の距離は縮まらないのが、難しいところ。

【全体を通して】

(委員) 健康第一で、コロナも含めて、超過勤務も含めて。

(委員) コロナ禍で大変さに頭が下がる思い。ただ、何よりもまずは授業を大切にしていきたい。

(委員) 先生方の頑張りを委員会にどう伝えていくか、協議会としてお願いをすることも考えたい。

(委員) 良い教育成果を上げておられる。コロナ禍にもかかわらず、素晴らしい結果が出ている。謙虚にならず、教育の成果をもっとアピールしてほしい。